

Title	語文 第112輯 表紙
Author(s)	
Citation	語文. 2019, 112
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77195">https://hdl.handle.net/11094/77195</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

令和元年 六月三十日 発行  
 平成元年十二月五日 学術刊行物認可

# 語文

大阪大学国語国文学会

第百二十一輯

信多純一先生追悼	大橋 正叔	1
信多純一先生の学徳に感謝	松原 秀江	5
仰げば尊し	出原 隆俊	9
六年間十α	川崎 剛志	12
畏敬と敬慕の間	福田 安典	15
信多純一先生の人と学問	堀 和博	19
『蜻蛉日記』上巻後半部の道綱母と時姫の短連歌の場面	小林 理正	32
平安（末期）写本の痕跡	尹 美羅	43
——鎌倉写本の和歌書式からみえてくるもの——	島津 忠夫	57
志賀直哉「襖」の表現構造	勢田 道生	65
島津忠夫著作集以後の著述目録・補訂	岡部 祐佳	78
紹介 島津忠夫著『老のくりごと——八十以後国文学談儀——』	稲本 紀佳	79
紹介 飯倉洋一・盛田帝子編『文化史のなかの光格天皇	西谷 龍二	81
——朝儀復興を支えた文芸ネットワーク——		
紹介 山崎勝昭著『俗地と文人——幕末期大坂の萩原広道——』		
紹介 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太編		
『バリエーションの中の日本語史』		
平成三〇年度卒業論文・修士論文・博士學位論文（課程）題目		82
平成三〇年度受贈図書		83
平成三一年・令和元年度講義題目		84
彙報		85
『宇治拾遺物語』のノ・方尊卑の実態について	後藤 睦	102
——ア・方尊卑説——再考のための端緒として——		
「焦点」の外延的意味論による解釈一斑	金水 敏	108